

南佐久地域で新規緑肥品目の導入検討を行っています。

南佐久地域では、冬場の土壌流亡・風食対策や有機物補給、そして短期輪作などを目的に、従来からライムギやエンバクなどのいわゆる「緑肥作物」の導入が行われています。小海支所では、今後さらに緑肥作物の活用推進を図るため、これまで地域に導入されていない新たな緑肥品目の現地実証を行っています。現在、従来から導入されてきたムギ類と比べて作業の省力化が期待できる緑肥品目として、ハゼリソウとヘアリーベッチの2種類の緑肥の現地適性を調査しております。昨年から今年にかけての試験の中で、ハゼリソウ・ヘアリーベッチは雑草を抑制する効果や従来の緑肥に比べて鋤き込み作業を簡易化できることが確認されています。

今後、更にデータ収集を行い、現地への普及啓発を図っていきたいと思います。



地表を殆ど被覆したハゼリソウ(白枠内)